

I. はじめに

尚絅学園は、2013年に学園の将来計画である「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」を制定し、その後、学園を取巻く環境変化や計画の進捗状況等を勘案し、2015年及び2017年に改定を行い全学的に教育研究や管理運営面に亘る改革に取り組んできました。その様な中、2018年は計画の中間点、折り返し点にあたるとともに、文部科学省の幼児・初等・中等教育における学習指導要領の全面改訂や「第3期教育振興計画」の策定、中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の答申など、今後の社会変化の方向を踏まえた学校教育の在り方に関する新たな方向づけや、教育改革の目指すべき姿が相次いで示されました。私たちはこれらの環境変化や今後の教育政策を積極的に将来計画に織込む必要性を認識し、2019年に第3回目の改定に取り組みました。

2019年度事業計画を策定するにあたり、第3回改定後の「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」に基づき、具体的かつ明確な単年度事業計画を立て、一つひとつ確実に実行していくことが必要です。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が社会に支持され、社会に貢献していくためには、経営力の強化、強固な財務基盤の構築、人材(教職員)育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の拡充が必要不可欠です。

- 経営力の強化
経営の規律と誠実性を維持しつつ、急速な環境変化に迅速に対応するため、今以上にガバナンスの強化・組織マネジメントの強化に取り組めます。また、積極的な情報公開を推進し「経営情報の見える化」を実現するとともに、コンプライアンスの遵守・働き方改革への積極的な取り組みによる教職協働を実現し、組織力の結集を図ります。
- 強固な財務基盤の構築
単年度の収支バランスが不均衡になっており、安定した財務基盤の確立が急務となっています。
学生生徒等の定員未充足の早期解消と学生生徒等納付金の見直しや補助金等の確実な獲得、経費管理の厳格化と支出抑制等による収支改善に取り組み、適正な収支バランスの確保に取り組みます。
- 人材育成の強化
高度化・複雑化する教育・研究に適応し、多様化する学生・生徒への適切かつ確かな対応ができる人材の育成が重要となっています。
実効性のある研修体制の整備、計画的なFD・SDの確立に取り組み、教職員一人ひとりの資質向上・能力向上の強化に取り組みます。
- 施設設備及び教育・研究環境の拡充
安全・安心を充分担保した施設設備の整備や機動的・有効的な危機管理態勢の確立を目指します。
高度情報化やグローバル化等の環境変化に対応したIT環境・インフラ整備の構築とともに、将来構想に基づく計画的な教育・研究環境の拡充に取り組みます。

(1) 経営力の強化

重点施策	具体策
<p>1. ガバナンス強化と自立的な内部統制の充実</p> <p>(1) 役員の責任と権限の明確化及び監事機能、評議員会機能の充実</p> <p>(2) 自主行動基準である「ガバナンス・コード」の策定</p> <p>(3) 三様監査体制による監査機能の強化と内部統制の充実</p> <p>(4) 次期中長期行動計画・中期財務計画・中期人員計画、施設設備計画等の策定</p>	<p>① 理事・監事・評議員の責任と権限の明確化と寄附行為等への反映</p> <p>② 理事会・評議員会機能の実質化に向けた検討と規定化</p> <p>③ 監事機能の実質化に向けた検討と規定化</p> <p>① 「ガバナンス・コード」の策定</p> <p>① 内部監査結果を反映した業務執行体制の構築</p> <p>② 監事・監査法人・内部監査室の3者間での情報共有と監査機能の強化</p> <p>① 次期中長期行動計画・中期財務計画・中期人員計画・中長期施設設備計画の立案に必要な情報の収集と研究</p>
<p>2. 組織マネジメントの強化と円滑なコミュニケーションの確立</p> <p>(1) 法人部門と教学部門の機能・役割の明確化と連携強化及びそのための仕組みや工夫の構築</p> <p>(2) 規程の整備促進及び権限と責任の明確化による厳格な運用の実施</p> <p>(3) 自己点検評価・外部評価を活かしたPDCAサイクルによる業務改善・業務執行の充実</p> <p>(4) リーダーシップとボトムアップのバランスの確保</p>	<p>① 常勤理事会による意思決定の周知徹底と業務遂行の検証の継続</p> <p>② 各種委員会等の機能強化と年度実施計画の進捗管理</p> <p>① 規程と業務の整合性の検証とそれに基づく規程の改廃、新設の実施</p> <p>② 決裁権限規程に基づく適正な権限行使と運用状況の検証</p> <p>① 自己点検評価、外部評価で明らかとなった課題に対する適切な対応</p> <p>② 業務改善状況・業務執行状況の検証と見直し</p> <p>① リーダーシップによる業務遂行状況の把握と検証</p> <p>② 教職員による主体的・自主的な意見具申の検証と提案制度の見直し</p>

3. 積極的な情報公開と経営状況の可視化 (1) 積極的な情報公開のための体制及び規程等の整備 (2) 広報態勢の抜本的見直しと法人・教学部門の連携 (3) 広報戦略の明確化と戦略的広報の展開	① 情報公開規程の制定と適切な情報開示の実施 ① 設置校の広報態勢の抜本的見直しによる機能強化と学園広報との連携強化 ① 広報ツールや他学の広報戦略の調査・研究と戦略的広報への反映
4. コンプライアンスの遵守と職場環境の改善 (1) コンプライアンスに基づいた業務執行体制の確立と厳格な運用 (2) 人権・人格に配慮しハラスメント等のない職場環境の確立 (3) 働き方や時間管理の見直しによる職場環境の改善	① 行動規範の周知徹底と実践・遵守の徹底 ② 職員就業規則等諸規定の厳格な運用と懲戒規程の制定 ① ハラスメント等への理解・認識向上のためのSD研修の実施 ② 人権・人格を尊重した規律ある職場の確立と違反者への厳格な対応 ① 業務の役割分担と法令等の改正への適切な対応 ② 簡素化・効率化による業務の見直し及び実践 ③ 客観的な時間記録に基づいた時間管理の徹底
5. 教職協働と組織力の結集 (1) 委員会・会議体等の活性化と教職協働の推進 (2) 中高大連携の強化による総合学園としての強み発揮 (3) 同窓会・後援会・保護者会の組織力の増強と設置校・法人との連携強化	① 実効性のある委員会・会議体等のスクラップ&ビルド ② 年度実施計画の進捗管理の徹底 ① 中高大連携推進協議会による具体的な取組み強化と進捗管理の徹底 ① 学校・法人と同窓会組織等の連携強化による各種取組みへの相互協力体制の強化

(2) 強固な財務基盤の構築

重点施策	具体策
1. 安定した財務基盤の確立と将来に向けた着実な施設設備積立の実現 (1) 中期財務計画に則った厳格な財務運営の実現 (2) 施設設備計画の妥当性・計画実現性を考慮した着実な施設設備資金積立の実施	① 中期財務計画の実現性の検証と見直しの実施 ② 見直し後の中期財務計画に基づく財務運営の実施 ① 施設整備計画と連動した中期財務計画による施設設備資金積立の実現
2. 収支バランスの確保と筋肉質な財務体質への転換 (1) 学生生徒等の定員未充足の解消と学生生徒等納付金の見直しによる収入の確保 (2) 補助金等の確実な獲得と新たな補助金へのチャレンジ (3) 収入の多様性を図るための外部資金や寄付金等への取組の促進 (4) 経費支出の厳正な検証と抜本的な削減・見直しの実施 (5) 予算編成の堅確化と予算内運用の厳格化の促進	① 各学校及び学部学科の定員未充足解消のための打開策の検討 ② 各学校及び学部学科の学生生徒等納付金等の見直しの実施 ① 特別補助の確実な条件クリアと積極的な補助金獲得への挑戦 ① 尚綱学園創立130周年記念募金第1期(30/4~33/3)募集の継続 ② 古本募金や新たな寄附金創設の検討 ③ 教職員の連携による科研費等外部資金獲得のための情報収集と積極的応募の奨励 ① 予算計上に係らず執行時における適正性の検証と予算外執行への厳格な対応 ② 支出項目の抜本的な見直しと削減 ① 不要不急な経費支出の抑制と予算編成の堅確化 ② 予算内執行状況の厳格な運用と管理の徹底 ③ 法規性・適正性・効率性等の観点からの会計の適正化

(3) 人材育成の強化

重点施策	具体策
1. 人事政策と人事管理・労務管理体制の確立 (1) 人事管理・労務管理体制の強化と多様な人材登用に対応するための体制整備 (2) 適材適所への配属と必要妥当な人員配置の実現 (3) 公平性・公正性・納得性のある人事評価の確立と適正な処遇への反映	① 人事・労務管理者に対する研修強化 ② 採用方法・採用基準等の見直しと実施 ① 自己申告書の活用による適材適所への人員配置 ② 客観的な業務量算出とそれに基づく適正人員の配置 ① 考課者訓練の充実による評価と処遇の適正化 ② 評価結果のフィードバックによる能力開発と意欲の創出

	③ 公平性・公正性・納得性のある人事評価制度への継続した改善
2. 教職員の資質・能力向上と職能開発の促進 (1) 人材育成計画の構築と有効性のある研修体制の確立 (2) 全学的なFD・SDの活用及び教職員の組織運営への積極的な参画の醸成	① 学内外研修の計画的な実施と管理及び業務面への反映 ② 階層別研修の計画と実施 ① FD・SDの内容充実と出席率の向上 ② 委員会活動、学校行事等への積極的な参画推進

(4) 施設設備及び教育・研究環境の拡充

重点施策	具体策
1. 環境変化に対応した教育・研究環境の充実 (1) 施設設備の点検強化と既存施設設備の有効活用 (2) バリアフリー化や受動喫煙対策等への的確な対応 (3) 高度情報化やグローバル化にも対応した快適な教育研究環境の実現と学外利用の促進	① 施設設備の定期的な点検の実施 ② 既存施設設備の利活用の検討 ① 施設設備点検によるバリアフリー化の推進 ② 受動喫煙対策への的確な対応 ① IT環境、グローバル化環境に対応した教育研究環境の整備 ② 学外利用を含めた既存施設設備の利活用を検討
2. 危機管理態勢の強化とインフラ整備の促進 (1) 危機管理体制の検証・見直しと機動性・有効性を担保した危機管理体制の確立 (2) 情報システムに関する危機管理体制の整備とインシデント対応の強化 (3) 防犯・防災・減災体制の確立と備蓄等を含めたインフラ整備の促進	① 危機管理委員会主導による危機管理体制の検証と見直し ② 危機事象に対する危機管理体制の実効性と機動性の検証 ① 情報システム管理体制の見直し ② インシデント対応の即時性の検証 ① 具体的な防犯・防災・減災体制の見直しとインフラ整備の推進
3. 将来構想とそれに基づく施設整備計画の立案 (1) 将来構想の具体化 (2) 財政的リソースを伴った施設設備計画の立案	① 学部・学科の改組や4年制課程の新設等による学校改革に連動した施設設備の具体化 ② 武蔵ヶ丘キャンパスの再開発及び学生寮・職員社宅の見直し等の検討 ① 将来構想に基づく中長期施設設備計画の策定

2. 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

本学の最重要課題は、定員未充足の学部・学科があり、一部はそれが恒常化しつつあることです。教育の質を上げることによって魅力を高めるとともに、今年度は特に戦略的な広報活動を展開し、学生確保に力を尽くします。教育の質保証についても大学教育の重要課題であり、学生に対しても社会に対しても責任を果たして参ります。また、高校生と社会のニーズを汲み上げて、新たな学部やコースの設置、新たな教育課程の整備にも取り組む必要があります。

学生支援については、学修支援センター、就職・進路支援センターの活動を一層充実し、支援の質を高めます。

研究及び社会連携に関しては、産学官連携の強化に努め、尚綱食育研究センター、尚綱子育て研究センター、尚綱ボランティア支援センターの活動を活性化するとともに、尚綱地域連携推進センターの機能強化を図り、社会貢献の諸活動を推進し、本学の地域社会での存在感を高めます。また、生活科学部・食物栄養学科・幼児教育学科と附属こども園の教職員を中心に担われている尚綱食育推進プロジェクトにおける研究活動を本格化し、研究成果の発信を推進します。

IR及び自己点検に関しては、大学内外のデータの収集分析に努めて大学の適切な運営を支え、第3期に入った認証評価における内部質保証の課題に適切に対応できるよう、点検評価を実施します。

(1) 教育と学修の充実

重点施策	具体策
1. 質の高い教育の実施 (1) 建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進 (2) 教育方法及び教育体制の点検と改善 (3) 教育課程の点検と改革 (4) FD及びSD活動の推進	① 基礎セミナー及び全学共通開講科目の実施と検証 ① 認証評価における第3期評価システムへの対応 ② シラバス記載のチェックと改善 ③ 学外者及び学生代表者の参画による点検・評価 ④ ICT活用を活用した授業の検討と実施 ① 教養教育科目の実施と検証(教養教育部会) ② IR情報を利用した教育課程の検証と改善 ③ 履修系統図作成による全授業科目に係る体系性・有機的連携の確認 ① 授業改善アンケートの実施

(5) 実務家教員他多様な人材の登用	② オープンクラス・ウィークの実施 ③ FDに関する学生代表または学外者からの意見聴取 ④ アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価に関するFDの実施 ⑤ 学内研修会の開催 ⑥ 学外研修会への積極的参加 ① 実務経験のある教員による担当可能な授業科目調査及び授業内容の検討
2. 学修支援と学修成果向上への取組の実施 (1) 免許・資格取得のための教育課程・指導体制の整備 (2) 学修成果の計測・評価・情報公開 (3) 学修支援の強化及び学修成果の向上	① 教職課程再課程認定への事後対応(教職課程専門委員会) ② 教員免許状更新講習の実施(教職課程専門委員会) ① 評価マトリックスの作成、配付(教務課) ② 評価マトリックス以外(ループリク等)による学修成果の計測・評価の検討と実施 ③ 学修成果の情報公開 ① 学修支援センターにおける基礎学力支援(教養教育部会) ② 厳格な成績管理等に関する基準の制定及び公表(教務連絡協議会)

(2) 学生の確保

重点施策	具体策
1. ニーズに応じた体制の整備と多様な学生の確保 (1) ニーズ調査及び分析を踏まえた学部・学科の改組及び学部設置等の検討と取組 (2) 入試方法の改革 (3) 入試広報の充実 (4) 社会人入学生受入れの強化 (5) 正規留学生受入れの検討と実施 (6) 高大連携の推進と内部進学率の向上 (7) 同窓会との連携強化 (8) 入試奨学金制度の創設	① 幼児教育4年制課程(新学部)設置の検討と準備 ② 現代文化学部所在地移転の検討と準備 ③ 生活科学部におけるコース・資格導入の検討 ④ 学生のニーズに適応した授業科目・免許・資格等の調査・研究及び導入の検討 ① 大学入学者選抜改革の趣旨を踏まえた対応策の検討と実施 ② 「学力の3要素」について多面的・総合的に評価できる入試方法の策定 ③ アドミッションポリシーに則した多様な入学者選抜方法の実施 ④ 長期的、全学的観点からの入試戦略の策定と実施 ① 高大接続を踏まえた情報提供型の広報イベントの充実拡大 ② オープンキャンパスの実施時期・実施内容の見直 ③ ソーシャルメディアネットワーク活用の拡大 ④ 奨学金制度の拡充と周知による志願者増加策の実施 ⑤ 広域広報活動(ADの有効利用方法等の再検討)と地方試験拡大の可能性検討 ① 専門実践教育訓練講座の指定校としての周知広報 ① 正規留学生受入れ是非の検討 ② 海外における志願者募集方法の検討 ③ 外部検定等を利用した入学者選抜方法の検討 ④ 正規留学生の受入を可能とするための支援体制の検討 ① 高大接続を踏まえた入学者選抜方法の検討 ② 高大連携・広報戦略としての学修支援(受験前教育)等による信頼関係の構築 ③ 高校等への出前授業・進学ガイダンスの実施 ④ 内部進学率の向上を目的とした尚綱高校に対する出前授業・高大連携授業等の実施 ① 同窓会との連携強化と志願者情報の収集・提供等の拡大 ① 給付型入試奨学金の拡充 ② 減免型予約奨学金の新設

(3) 学修環境の整備

重点施策	具体策
1. 安全で快適な学修環境の整備 (1) 教育施設のバリアフリー化を含む整備と安全管理の実施	① 障がい等特別支援を要する学生に対する環境整備 ② 給食管理実習室の手洗い場の改修

(2) 学生の心身の健康維持・向上及び特別支援を要する学生への支援	③ 教室・事務室照明のLED化検討 ① 障がい有する学生への支援(教養教育部会) ② 保健室・カウンセリング利用状況調査の活用 ③ 疲労蓄積度調査の集約及び活用 ④ 学生生活実態調査の集約 ⑤ キャンパスソーシャルワーカー導入の検討 ⑥ 相談員導入の検討
(3) 図書館の整備と図書館活用の推進	① 図書館資料・情報資源の充実と利用促進 ② 図書館利用環境の改善 ③ 図書館システムの更新
(4) 防犯・防災のための危機管理体制の整備と強化	① 学生・教職員の防犯・防災意識の向上 ② 防災・防犯対策用品の整備 ③ 教職員に対する防犯・救急措置法などの講習実施
(5) 情報環境の整備	① 無線環境の整備・展開
(6) ハラスメントの防止	① 学生生活実態調査の集約 ② 保健室・カウンセリングの学生相談状況調査の活用 ③ ハラスメント防止ガイドライン及び相談窓口の周知 ④ 教職員に対する研修

(4) 学生支援の充実

重点施策	具体策
1. 学生生活に対する支援 (1) 中途退学防止への取組 (2) 学納金の免除・減額制度導入の検討 (3) 奨学金・表彰制度の充実 (4) 学生寮(如蘭学寮)の整備と管理	① 現状分析と中途退学者防止策の検討 ② 問題の早期発見に向けての観察の強化及び情報の共有 ③ 障がい等特別支援を要する学生への支援 ④ 授業料免除に関する現行制度の周知 ① 新制度に向けての検討 ① 奨学金制度の検討 ② 各種奨学金の周知、事務の充実 ① 現状分析及び改善事項の対応
2. 自治的活動の活性化に対する支援 (1) サークル活動活性化の支援 (2) ボランティア活動の支援 (3) 尚綱祭の支援	① サークル活動費使用等に対する助言と支援 ② サークル活動の実態把握と活動に関するサポート ③ クラブ・サークル広報の強化 ④ クラブ室の環境整備 ① ボランティア支援センターの周知 ② 募集と応募に関するウェブ手続きの検討 ③ ボランティア募集情報の広報強化の検討 ④ ボランティア活動保険の周知及びその加入支援 ① 尚綱祭に対する助言と支援
3. キャリア形成・就職支援 (1) 教職協働でのキャリア形成、就職・進路支援活動の充実強化	① 学科に応じた適正な「就職(進路)指導」計画の立案と運用 ② 「就職対策講座」の安定的開講及びSPI勉強会の活性化等による筆記試験対策の強化 ③ 夏季及び春季のキャリアガイダンスの充実 ④ インターンシップ、合同会社説明会への参加の活性化 ⑤ 「就職懇談会」の充実と教授会等への結果の確実なフィードバック ⑥ 資格取得・能力認定試験に関する継続的支援 ⑦ 個別面談等による就職未内定者に対する支援の強化 ⑧ 保護者向け情報発信の強化による保護者との連携の緊密化 ⑨ 学生による就職支援体制の構築

(5) 研究力の強化

重点施策	具体策
1. 研究倫理の遵守 (1) 研究倫理の遵守のための諸活動の推進	① 研究倫理に関する諸規程の内容の確認及び教職員各自の役割の確認 ② 研究活動の不正防止のための研究倫理教育の実施 ③ 競争的資金等の運営・管理に関する不正防止計画の策定 ④ 競争的資金等使用ハンドブック2019の作成と配布 ⑤ 競争的資金等の運営・管理に関する不正防止計画の策定管理に関するコンプライアンス教育の実施
2. 研究力の向上と研究活動の活性化 (1) 教員の研究力の向上と研究活動の活性化 (2) 研究環境の整備 (3) 尚綱子育て研究センターの研究力向上と活動の活性化 (4) 尚綱食育研究センターの研究力の向上と活動の活性化	① 産学官連携に基づく共同研究の推進 ① 研究設備・機器の計画的購入・更新・整備 ① 乳児保育研究会の定例開催と保育現場と共同した保育実践研究(視察及び助言・指導含む) ② 保育の質向上及び保育者の早期離職防止のための条件整備に関する研究及び成果の還元 ③ 保護者支援、子育て支援に関する実践的研究及び研修・交流の場の提供 ④ 保育・栄養専門職と保護者・地域と連携した乳幼児の食育推進プロジェクトへの協力・連携 ⑤ 尚綱大学短期大学部附属こども園の保育・子育て支援の充実にむけた協力・連携 ⑥ 『児やらい』第16巻の発行及び学園ウェブページによる情報発信 ① 郷土料理教室の実施 ② 学食レシピコンテストの実施 ③ 学生の食生活状況の改善に向けた具体策の検討
3. 研究費の効果的配分と外部資金の獲得 (1) 研究経費の効果的配分 (2) 外部資金獲得の支援	① 科研費の申請状況に基づく特別研究費の傾斜配分 ② 学内共同研究への特別研究費の配分 ① 外部資金に関する情報の提供と講習の実施

(6) 社会連携の拡充

重点施策	具体策
1. 産学官民との連携 (1) 尚綱子育て研究センターの地域連携と地域貢献 (2) 尚綱食育研究センターの地域連携と地域貢献 (3) 尚綱ボランティア支援センターの地域連携と地域貢献 (4) 尚綱地域連携推進センターによる地域連携の推進 (5) 大学コンソーシアム熊本を活用したプラットフォームの形成	① 第19回公開シンポジウムの開催 ② 第6回保育実践講演会の開催 ③ 熊本県地域型保育連絡協議会との協力・連携(定例会議の開催、現任者研修の開催協力) ④ シンママ熊本応援団(ひとり親家庭への支援)との協力・連携(拠点活動への協力、研修会・交流会の開催、相談支援及び専門知識の提供・調査研究) ① 自治体等が開催する各種イベントへの参加協力 ② 産学連携推進部会六次産業化育成連絡会への参加 ③ 自治体や企業へのレシピ提案等による地域貢献 ① 当支援センターによるボランティア活動の企画の検討 ① 連携を研究、教育に幅広くいかすため、全学科、3センターとの情報共有 ② 包括協定先との定期的な情報交換、共同事業の実施 ③ 武蔵ヶ丘近隣6校区長との定例会議の開催 ④ 産学連携を念頭に企業等との協定を推進 ⑤ 東海大学九州キャンパスとの協定活動の推進・支援 ① プラットフォームへの参画及び中長期計画への取り組み
2. 本学が有する資源の地域社会への還元 (1) 公開講座の開催 (2) 高大連携の推進	① 尚綱公開講座、サマーセミナー、現代文化学部・文化言語学部公開講座の開催 ① 高大接続を踏まえた大学の知的資産の地元高校、高校生への還元 ② 高大連携・広報戦略としての学修支援(出前講座)等による信頼関係の構築

(3) リカレント教育の推進 (4) 学校施設等の開放	① 各学科のリカレント教育の実施状況を把握 ① 近隣住民、公開講座、卒業生、こども園保護者等への図書館利用の活性化 ② 利用希望者への体育館、教室当施設の開放促進
3. 同窓会との連携 (1) 同窓会との連携によるホームカミングデイの実施と改善	① 来場者の増加のための検討 ② 各学科における事業内容の検討

(7) 国際交流の体制整備と拡充

重点施策	具体策
1. 海外の教育研究機関との連携 (1) 国際交流に関する基本方針の策定と体制整備の強化 (2) 既存の提携教育研究機関とのさらなる連携の強化 (3) 新たな教育研究機関との交流協定締結の検討	① 大学・短期大学部の国際交流に関する基本方針の策定 ② 国際交流室の整備と活用 ③ 交換留学生の学生チューター制度の運用 ④ 国際交流に関する危機管理体制の整備 ⑤ 国際交流業務の教職員役割分担の整備 ⑥ 正規留学生の受け入れについての検討 ① 相互研修旅行、短期語学留学、交換留学の実施 ① 中国(上海財経大学)との交流締結 ② 韓国(済州大学校)との交流締結 ③ アメリカ等英語圏の教育研究機関との連携の検討
2. 留学生の派遣と受け入れ (1) 交換留学生の派遣と受入の適切な実施	① 各交流協定締結校との連携強化

(8) IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応

重点施策	具体策
1. IR機能の強化 (1) 大学企画室機能の充実と強化	① IR活動の推進 ② 大学・短期大学部事業計画の進捗管理 ③ 大学広報に関する企画・立案及び連絡調整 ④ DATA BOOKの改訂・活用 ⑤ 各種アンケートに関する企画・実施・分析・公開
2. 恒常的な自己点検・評価システムの構築と実施 (1) 自己点検・評価の定期的実施・公表 (2) 外部評価委員会の設置と運営 (3) 第3期認証評価への適切な対応	① 自己点検・評価規程に基づく自己点検・評価の実施 ① 外部評価委員会規程の制定及び委員会の開催 ① 第3期評価システムに関する教職員向け説明会の開催
3. PDCAサイクルの確立 (1) PDCAサイクルの確立と徹底	① 内部質保証システムの構築及び運用

3. 尚綱中学・高等学校

2019年度は2022年度から年次進行で実施される新学習指導要領を視野に入れて検討し、さらなる事業内容の充実と新しい事業の取り組みを以下のように策定しました。

- (1) 特色ある教育の確立については、「建学の精神」「教育理念」を基に、魅力ある授業や学校行事等を通して知識・技能・思考力等のバランスの取れた生徒の育成に努めると共に、新学習指導要領の内容を踏まえ、学力向上及び授業改革に取り組みます。また、徳育・情操教育・女子教育の充実を図り、社会的・職業的自立に向けて必要な能力が身につく取り組みを行い、グローバルな社会で活躍できる人材を育成するために生徒の国際交流の活性化を推進します。
- (2) 教育の質向上については、生徒に「何ができるようになるか」という具体的な目的を明確に示すことにより「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒が自ら考える授業を行います。その為にカリキュラム・マネジメントを確立して、学校全体として教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、教育活動の質の向上を目指します。また、キャリア教育の充実にも努め、職業観の育成や職業人に求められる倫理観の育成を図ります。
- (3) 生徒支援の確立については、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携を一層深めて生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整えます。

- (4) 地域貢献の充実については、地域の実態や社会のニーズに応じて地域社会に積極的に参加できる人材を育成すると共に、地域に開かれた学校として学校の特色を活かした地域の行事の参加、ボランティア活動、及び各種大会を主催して地域への活性化に貢献します。
- (5) 学習意欲あふれる生徒の確保については、女子の総合学園として様々な生徒を広く受け入れるためにコース毎の魅力を再構築します。また、シャトルバスの運用や特待生制度を更に充実させて、県下一円の地区から幅広く志願者を募ります。公立小学校・中学校に加えて学習塾や地域との連携を深め、広報活動の充実を図ります。
- (6) 学校評価の意義と目的を全職員が理解して、学校運営に反映させ、より良い学校作りに活かします。

(1) 特色ある教育の確立

重点施策	具体策
<p>1. 人間教育プログラムの充実</p> <p>(1) 外部人材・事業の活用</p> <p>(2) グローバル教育の充実</p> <p>(3) 礼法教育の確立</p> <p>(4) 諸活動のPDCAサイクルの確立</p>	<p>① 講演会、学年別講話、各種研修会等における公的機関等の人材活用</p> <p>② 教員対象、生徒対象、保護者対象の各講演会の実施</p> <p>③ 3ヶ年の進路ガイダンスの構築</p> <p>④ DV防止講話、クレジット等法律関係講話の実施</p> <p>① 長期留学生の積極的な受け入れと本校生徒との交流</p> <p>② 短期・長期留学の積極的な促進と留学相談の充実</p> <p>③ 海外姉妹校・交流校との積極的な交流活動の推進</p> <p>④ ホストファミリーバンクの新規募集とショートステイの実施</p> <p>⑤ グローバルなテーマに関するスピーチ、ディスカッション、ディベートの実施</p> <p>⑥ 英語科教員のグローバル研修</p> <p>⑦ グローバル教育委員会の設置と教育内容の検討</p> <p>① SST(Social Skills Training＝スキル教育)などを活用した本校独自のプログラムの検討</p> <p>② 礼法教育の徹底と教員研修の徹底</p> <p>① PDCAの充実と検討</p> <p>② 小論指導の検討と実施</p> <p>③ 朝読書の充実</p> <p>④ LHR内容の検討及びPDCAの徹底</p>
<p>2. 魅力ある授業の確立</p> <p>(1) 教科指導力の向上</p> <p>(2) 授業改善の確立</p> <p>(3) ICT教育の充実</p>	<p>① 外部研修会参加と校内での研究発表の推進</p> <p>② 教科会の充実</p> <p>③ 大学入試改革を視野に入れた入試問題の研究</p> <p>④ 定期考査等作問研修会の実施検討</p> <p>① 研究授業の実施</p> <p>② グルーピング・協働作業の導入</p> <p>③ 新聞記事の積極的活用</p> <p>④ アクティブラーニングを活用した授業展開</p> <p>⑤ 学年毎の教科担当者会の実施</p> <p>① 情報の収集と研修参加及び具現化への計画・立案</p> <p>② 視聴覚教材の積極的な活用</p> <p>③ SKYMENUを活用した教師－生徒間での教材の共有システムの構築</p> <p>④ e-ポートフォリオによる生徒の状況把握と進路指導部との連携</p>
<p>3. 進路指導の充実</p> <p>(1) 進路指導力の向上</p> <p>(2) 進路研修会の充実</p> <p>(3) 進路実績の向上</p>	<p>① 年間計画の検討と策定</p> <p>② 進路指導研修会参加の推進及び情報の共有化</p> <p>③ 進路面談の研修会の実施</p> <p>④ 個々の生徒データに関する作成方法の研修</p> <p>⑤ 生徒データの蓄積と活用</p> <p>⑥ ベネッセハイスクールオンラインの活用</p> <p>① テーマ別外部講師による研修会の実施</p> <p>① 進路データの共有化とその利用の促進</p> <p>② 模擬試験の実施と結果分析</p> <p>③ 学力上位層の朝課外とゼミの充実</p> <p>④ キャリア教育の年間計画作成と実施</p>

(4) 課外授業の確立	① 希望課外(総合・一貫)、全員課外(特進)の実施と内容の充実
(5) 個別指導の強化	② 個に応じた指導の充実 ① 多様な生徒の教科指導や進路指導の強化 ② 考査前学習会の実施と内容の充実 ③ 教科担当者による面談の実施 ④ 新聞要約・情報収集による面接・小論文指導の充実 ⑤ 大学入試問題の分析と受験スタイルに対応した指導の徹底 ⑥ 添削指導の実施
(6) 進路指導体制の研究と実践	① 総合・一貫コース生徒の入試対策の充実 ② コース枠を越えた、上位者の合併授業の推進
4. 各コースの特色づくり	
(1) 各コースの教育内容の研究と実践	① 各コースの教育内容についての検討 ② 伝統文化教育・環境教育の検討と充実 ③ 大学入試改革に対応した教育課程の研究 ④ 理系(食・看護)コースでの外部講師の授業研究 ⑤ ボランティア・留学等の体験学習の充実
(2) 特色あるカリキュラム・選抜クラスの充実	① カリキュラム検討委員会の充実 ② 留学や各種検定試験の推進、校外活動などの幅広い体験活動の推進 ③ ITスキル向上に向けた取り組み・プレゼンテーション力の育成 ④ 選抜クラスの担任、教科担当者の情報共有等の充実 ⑤ 高大連携授業の充実
(3) 各種検定試験の充実	① 各教科の検定試験の検討及び推進 ② 総合コースにおける環境教育の導入
5. 中高大連携の強化	
(1) 内部進学の実現	① 入試連絡会の充実 ② 大学と高校相互の情報交換の推進 ③ 高校1・2年の内部進学希望者対象説明会の推進
(2) 高大進学連絡会の充実	① 日常的な大学各学科及び入試センターとの情報交換の推進 ② 短大・大学との連携強化会議の推進
(3) 中高大連携事業・授業の確立	① 魅力ある学部学科説明会の開催及び大学の授業体験の充実 ② 中国語・韓国語講座の見直しと推進 ③ 効果的な説明会の内容と時期の検討 ④ オープンキャンパス及び小論文講座の積極的な参加と報告書の活用 ⑤ 中高大職員の相互乗り入れ授業の推進 ⑥ 中高大職員の合同研修
(4) 広報活動の連携強化	① 大学入試センターや入試アドバイザーとの連携強化 ② 学校訪問や塾訪問、入試説明会などの情報交換と資料提供

(2) 教育の質向上

重点施策	具体策
1. 主体的・対話的で深い学びの授業の確立	
(1) 教科の特質を活かした取り組みの研究と実践	① 各教科における特色ある授業研究の推進 ② 冊子「尚綱の教育」の作成 ③ 主権者教育の実施 ④ 学習指導の充実と観点別学習状況評価の研究 ⑤ 学習指導と学習評価のPDCAサイクルの研究 ⑥ 新学習指導要領を踏まえた実践例の研究、説明会への参加
(2) 言語能力の確実な育成	① 英語科によるディベート、プレゼン、スピーチによる授業展開の実施及び研究発表 ② (英語)日常の学校生活における英語使用の促進 ③ (国語)書く・話す能力の育成を目的とした発表・表現の充実 ④ (国語)読書量増加への取り組みと新書への意識付けの促進 ⑤ (一貫)「ことば教育」の再検討

(3) 教科の横断的な学習の充実	① 教科の枠を超えた授業観察及び研究会の実施 ② 他教科とのコラボレーションの推進 ③ プレゼンテーション時のICTの活用促進及び研究発表の推進 ④ 国語科及び他教科による小論文指導の徹底 ⑤ NIEの活用促進 ⑥ 情報教育と他教科との連携授業の研究
2. カリキュラム・マネジメントの研究と取り組み (1) 社会に開かれた教育課程の研究 (2) 理数教育の充実 (3) 伝統や文化に関する教育の充実 (4) キャリア教育の充実	① 社会と本校のつながりを考えた教育課程の研究と共有及びカリキュラムの作成 ① 論理的に問題解決を図る能力を育成するための授業研究 ② 新カリキュラム「理数探求・理数探求基礎」の研究 ① 礼法教育・マナー教育の徹底及び組織化の検討 ② 伝統文化の促進及び充実 ① 「総合的な探求の時間」の有効活用と研究 ② 進路ガイダンスの充実
3. 主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実 (1) 主権者教育、消費者教育等の充実 (2) ホームルーム活動、特別活動の充実	① 公的機関との連携による講話の実施 ① 避難訓練を実施し、適切な災害対応能力を育成 ② 校外ボランティアへの取り組み ③ 外部講師講話、体験型校外活動、その他の活動のリスト作成及び実施

(3) 生徒支援の確立

重点施策	具体策
1. 奨学生制度・表彰制度等の活用 (1) 制度を活用した生徒の支援	① 尚綱学園育英褒章の選考 ② 花桜会奨学生(高校3年=2月、中学と高校1・2年=4月)の選出 ③ 安心メールを使用して公的制度の生徒・保護者への周知徹底 ④ 奨学生の採用及び特待生・奨学生の審査と指導の実施
2. 課外活動の充実 (1) 生徒会活動の充実 (2) 部活動の充実 (3) ボランティア活動の強化 (4) リーダー養成の活発化	① 生徒総会の実施と常任委員会の活性化 ② 生徒会主導による学校行事の実施と活性化 ① 生徒会議による、各同好会、愛好会の昇格決定及び見直し ① 活動の再検討及び活動範囲の拡大 ① 定期的な常任委員会の開催と校内外活動の充実 ② 生徒会、委員会、部活動代表者によるリーダー研修会の実施
3. 教育相談の充実 (1) 生徒支援体制の確立 (2) カウンセリングの充実 (3) 外部組織・人的支援の活用	① 生徒情報共有化の職員研修の実施 ② 入寮生徒の支援の充実 ③ 入寮生徒へのカウンセリング ① 個人面談の全校一斉実施 ② 専任カウンセラーの配置と活用 ① 保護者の希望によるスクールカウンセラーを囲む座談会の実施 ② 熊本県の派遣事業を利用したSSW、相談員との連携
4. 育友会・後援会・同窓会との連携の確立 (1) 学校行事での連携強化 (2) 保護者会の充実 (3) 同窓会・後援会総会等への出席の確立	① 入学式、育友会総会、文化祭、ホームカミングデイ、体育祭、尚綱コンサート、卒業式、金峰山登山などを協働で実施 ① 学期毎の保護者会・授業参観の充実 ① 管理職を中心に各行事に積極的に参加

(4) 地域貢献の充実

重点施策	具体策
1. 地域活動の支援 (1) 部活動等の合同練習会開催の確立	① 長期休暇等を利用した練成会や合宿・遠征試合の実施

(2) ボランティア活動の充実	② 専門家による食事指導やトレーニング指導の実施 ③ 外部団体の練習会への参加 ④ 私立合同練成会の実施 ① 地域の各種ボランティア団体との交流の実施及び報告会の実施
2. 学校主催事業の充実 (1) 本校主催の各種大会の開催	① 小学生英語暗唱大会の開催 ② 長期休暇等を利用した練成会の実施

(5) 学習意欲あふれる生徒の確保

重点施策	具体策
1. 広報活動の充実 (1) 活動内容の再検討 (2) 広報部員のスキルアップ (3) ホームページの充実 (4) 全職員対象研修会の確立 (5) 広報部の組織改革の確立 (6) 入試内容の検討 (7) 小学校・中学校・学習塾・個別訪問活動の充実	① 広報部を中心とした定期的な戦略会議の実施 ② 在校生、卒業生、保護者、花桜会との連携による広報の検討 ① 県内外の学校視察の実施と広報部内の共有化 ② プレゼンスキル向上のための研修会の実施 ① 正確な情報提供と内容の充実 ② 本校生徒広報系の活動の充実 ③ 各種大会・コンクール等の結果データの収集及び発信 ④ 他校のHPの研究 ① 募集活動を中心とした私学教職員に求められる資質等の研究 ② ビジネスマナー等の講演会参加及び研究 ① 明確な募集の数値目標と改善項目の設定に基づいた訪問活動の実施の提示 ② 生徒募集における課題の全職員による共有化 ① 入試問題や面接質問内容の検討 ② 中学校入試の再検討 ① 小学校訪問における担当職員の配置と全職員による定期的な訪問活動の実施 ② 特技を活かした入試へ対応するための学習塾、クラブチーム等への訪問活動の実施 ③ 大学入試アドバイザーとの連携による学習塾への訪問 ④ 熊本ゼミナール・明光義塾・その他主要な学習塾との連携強化
2. 入試制度の改革と訪問の強化 (1) 制度の周知徹底 (2) 特待生制度を活用した学力・特技に優れた生徒獲得の確立 (3) 指導者との連携の強化 (4) 入試制度の検討と充実	① 中学入試の変更点について受験生への早期伝達と徹底 ② 受験生・保護者対象の資料作成の充実 ① 小学校、中学校、学習塾、クラブチーム等への訪問・勧誘活動の強化と早期着手 ② 各種大会における視察活動の実施 ③ 中学入試の学力特待生獲得の強化 ① 相互の情報提供と人脈形成の拡大 ② 各種大会における挨拶回りの実施 ① 入試形態の多様化の検討 ② 帰国子女枠等の検討 ③ 一般入試制度についての検討
3. 小・中学生対象広報活動の強化 (1) 本校主催の大会等の充実 (2) 入試改革の達成 (3) 小学校・英語塾等の訪問強化	① 小学生英語暗唱大会・尚綱杯ソフトテニス大会の充実 ② 各種大会誘致の為に会場提供の推進 ③ バasketボール、弓道、ギター・マンドリン、百人一首、吹奏楽部等の本校主催の大会やイベントの実施 ① 入試時の成績とその後の追跡・調査の実施とデータ活用 ② 昇格・降格制度の見直し ③ 新大学入試改革対応のカリキュラム策定、授業内容、行事、組織体制等の検討 ④ 入試問題の再検討 ① 尚綱中学・高等学校の周辺小学校への訪問強化

	② 尚綱中学・高等学校在校生等の活躍・活動の発進 ③ 小学校や新規の英語塾への担当職員の決定と訪問回数の増加 ④ 時期に合った適切な資料の提供 ⑤ ALTを活かした英語塾への働きかけの強化
--	---

(6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 内部評価委員による学校評価の実施 (1) 生徒・保護者による学校評価アンケートの実施 (2) 内部評価委員による自己評価の実施	① 生徒、保護者対象のアンケート調査の実施と結果の検討 ① 自己評価委員、全職員による評価の実施
2. 学校評価委員による学校評価の実施 (1) 学校評価委員による学校評価の実施	① 学校評価委員による評価の実施

4. 尚綱大学短期大学部附属こども園

2018年度から教育・保育要領や指針が全面実施され、2019年度の後半からは幼児教育費の無償化が始まるなど、現在就学前教育は、大きな変革期を迎えています。そのような中で今年度、本園は、幼稚園からの移行4年目を迎えることとなります。幸い、本園がこの50年間蓄積してきた「こどもの遊び文化を継承し、自然の動植物に働きかけながら命を大切に育てる」教育は、新教育・保育要領の改訂の趣旨に沿うものであり、その中で「心身の調和的発達を図り、自立心を養い、情操豊かな、心身ともにたくましい子どもを育てること」こそ、本園が目指しているものです。

しかし、少子化の波や教育費無償化の流れを受け、他の各就学前教育施設での園児確保は大きな課題となっています。恵まれた自然と大学附属研究園というブランドだけに頼っていたのでは、本園も同様の課題と向き合うことになると考えられます。

改めて3年間のこども園としての蓄積と課題を検証し、保護者のニーズや社会の流れに対応することも園のあり方を検討しました。その結果、行事の精選や保護者参加活動の見直しを図る一方、日常の保育、教育の内容の充実を図りながら、保護者や地域社会に積極的に情報発信を行い、尚綱ブランドの信頼を高めること、大学との連携を一層強化しながら計画的に専門性を取り入れ、大学附属研究園としての基盤を一層強固にしていくことが必要であると考えます。また、本園の伝統である食育についても、こども園移行より始まった給食を生きた教材ととらえ、「主体的で深い学び」を意識した教育活動として実践するため、その一つ一つの活動を見直し、子どもの実態に合わせ随時修正を加えていく必要があります。本園は、地域との関係も良好で地元老人会も積極的に子どもたちと関わってくださっています。カリキュラムマネジメントの観点からも今後の附属園の課題や求めていきたいことを地域や保護者と共有し、協働して課題解決を図り、予測困難な時代に対応できる人材の育成の基盤を築き上げていくための1年目としたいと考えています。

(1) 教育・保育内容の改革と尚綱らしさの追求

重点施策	具体策
1. 豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり (1) 自然環境の整備 (2) 特別な支援を必要とする園児への環境充実	① 園庭及び保育棟南側の環境整備 ① カウンセリングまたは、クールダウンをするための部屋増設 ② ICT等の視覚教材の充実
2. 教育・保育内容の充実 (1) 教育・保育内容の改善 (2) 大学・短期大学部及び外部専門機関との連携強化 (3) 主体的に自然を体験する学びの推進	① 年間行事や保育計画の見直し、実践と次年度への改善 ① 幼児教育学科及び食物栄養学科との連携時期の共通理解 ② 熊本大学及び熊本大学附属幼稚園との連携強化 ① 大学キャンパス内の林を活用し、学びの課程を意識した保育・教育活動の展開
3. 生きる力を育む食育活動の推進 (1) 園児が主体的関わる栽培と収穫活動 (2) 給食指導と食育活動が一体となった食育計画の作成 (3) 食育活動を中心としたカリキュラムマネジメントの作成	① 園児が積極的に栽培、手入れ、収穫に関わる場と時間の確保 ② ゲストティーチャーの積極的活用 ① 管理栄養士との連携強化と給食会議の活性化 ① 食育計画、給食献立、保育計画の連携強化とその発信

(2) 園児の確保

重点施策	具体策
1. 園児募集に関する方法と後方活動の改善 (1) 園児募集の方法の検討と実施 (2) 多様な広報活動の実施	① 抽選制および、入園優先枠の拡充の検討 ① ポスター、パンフレット、保護者プレゼン映像等の専門業者活用

(3) 保護者への説明会・見学会の強化	② 保護者のSNS等の活用及びマスコミとの連携強化 ① 入園説明会・見学会での園の特色をPRするためのプロモーションビデオの作成
(4) 幼児教育無償化への対応	② スクールバス運行とバスコース・バス停の検討 ① 菊陽町との連携強化及び預かり保育増についての検討

(3) 子育て支援の充実

重点施策	具体策
1. 在園児保護者への子育て支援 (1) 講演会・子育て相談・援助の実施 (2) 延長保育・預かり保育の充実 (3) 特別支援教育の充実 (4) 健康管理の実施	① 園長による教育講演及び定期的な教育相談の実施 ② 個人面談の実施や保護者同士の連携を図る場の設定 ③ スクールカウンセラーの確保及び周知 ① 延長保育の申し込みシステムの改善と職員の連携強化 ① 定期的な発達相談会の実施 ② 町や市の特別支援教育連絡会や研修会への全員の参加 ③ 要支援園児に対する個別の指導計画の作成 ① 迅速な健康診断の結果の連絡、対応把握 ② 園内の衛生検査や衛生管理に関する研修と健康管理の徹底
2. 地域保護者への子育て支援 (1) 子育て支援室の利活用 (2) 尚綱子育て研究センターとの連携 (3) 保育体験の実施 (4) 子育て相談、外部専門機関の紹介	① 利用者のニーズの把握と利用システムの改善 ① 尚綱子育て研究センター職員による最新の子育て情報の提供 ① 親子遊び体験及び2歳児、満3歳児クラスでの保育参加体験の実施 ① 子育て支援室担当職員やこども園職員による子育て相談や情報提供の実施 ② 大学・短期大学部講師陣による子育て相談会の実施と外部専門機関の紹介

(4) 教育・保育の指導力向上

重点施策	具体策
1. 園内研修の充実 (1) 新教育・保育要領に対応した研究保育の実施 (2) 特別支援教育・人権教育に関する研修の強化 (3) 子どもの主体性を育む環境会議の実施	① 主体的、共同的な活動を意識した保育・教育とその評価に関する共通理解 ① 園内支援委員会の定期的開催及びケース会議の活用 ② 園内研修及び支援に関わる特別支援教育士との連携・活用 ① ICTを活用した環境会議の実施
2. 研修会・研究会等の積極的参加 (1) 学園・大学・短期大学部関連の研修会への参加 (2) 特別支援教育・人権教育の研修会への参加 (3) 実技研修会・その他の研修会等への参加	① 尚綱学園、大学・短期大学部の主催する研修会へ1回以上の参加 ① 県、市、町及び全幼研、全保研等主催の特別支援教育等への1人1回の参加 ① 自然を活用し、体験活動を重視した保育・教育の研修参加 ② 研修内容の共有のための報告会の実施
3. 短期大学部との合同研修及び研究会の開催 (1) 短期大学部との定期的、計画的な連携 (2) 実習生指導計画案の内容検討	① 園内研修への計画的な参加、協力依頼 ② 運動能力テストの実施と保育への活用 ① 幼児教育学科職員と幼児棟職員の連携強化

(5) 地域連携の拡充

重点施策	具体策
1. 地域交流の充実 (1) 地域老人会との連携強化 (2) 世代間交流の推進	① 年間行事の参加に依頼に加え、日常の保育活動へのボランティア参加に向けての模索 ① 行事参加を増やす取組と「尚綱祖父母の会」の設立に向けた取組
2. 円滑な幼小連携の推進 (1) 職員による学校訪問と小学校職員に向けての公開保育の実施 (2) 就学に向けた連絡会の実施	① 小学校と継続的段階的に検討実施 ② 交流協力校への情報発信の強化 ① 菊陽町、合志市、熊本市の教育委員会との連携強化

(6) 学校評価の充実と活用

重点施策	具体策
1. 学校評価の活用 (1) 職員の自己達成目標と連動させた学校自己評価の実施 (2) 保護者アンケートの分析と活用 (3) 学校評価を生かした保育・教育活動の実施	① 学校評価と人事評価制度を活用した重点施策の共通理解と評価 ② 学校評価を活用した教育・保育活動の振り返り ① 保護者アンケートの趣旨と結果の活用についての周知 ① 学校評価を生かした年度末の反省と次年度への改善の実施